別紙様式３（修士申請者用）

（西暦）2020　年度　博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること）

「作業療法士が有用と考える高齢者を対象とした急性期作業療法のアウトカム指標
-フォーカスグループインタビューとノミナルグループテクニックを用いた質的研究-」

学位の種類：　修士（　作業療法学　）
東京都立大学大学院
人間健康科学研究科　博士前期課程 人間健康科学専攻　作業療法科学　学域
学修番号 19896709
氏　名：本田 拓也
（指導教員名：谷村　厚子　准教授）

はじめに

日本の高齢者人口は増加の一途をたどり，今後高齢者が急性期病院を利用する需要は増えていくことが予想される．また，医療費適正化計画に向け，在院日数の短縮化が進み，急性期病院におけるリハビリテーションの提供が可能な期間は短くなってきている．そのため，今後高齢者を対象とした急性期の作業療法では短期間で支援の効果を示していくことが求められる．しかし，高齢者に対する急性期作業療法の効果を示すアウトカム指標に関する先行研究は今のところ十分ではなく，作業療法士の臨床経験から導き出されるアウトカム指標を検討した研究も見当たらない．よって，本研究では作業療法士の臨床経験や意見を基にし，高齢者を対象とした急性期作業療法に有用と考えられるアウトカム指標について知見を得ることが必要と考えた．

本研究の目的は，作業療法士が有用と考える高齢者を対象とした急性期作業療法のアウトカム指標を，作業療法士の合意形成により明らかにすることであり，本研究の意義は，高齢者を対象とした急性期作業療法の効果を示すアウトカム指標の資料として寄与できることであると考える．

方法

対象は 3 年以上急性期病院に従事した経験のある作業療法士とした．データ収集はグループインタビュー形式で行った．グループインタビューの1回目はFocus Group Interviews（以下，FGI）を行い，2回目と3回目はNominal Group Technique （以下，NGT）を行った．FGI では，研究対象者が高齢者を対象とした急性期作業療法で使用している心身機能やそれ以外の改善を示すアウトカム指標，および観察事項などの定量化されていないアウトカム指標とその選択理由について質問した．FGI で得られた記述データと文献調査から得られたアウトカム指標を統合しアウトカム指標リストを作成した．NGT ではアウトカム指標の有用性の点数化を行い，各項目の適切度を 5 件法によるリッカード尺度で採点した．NGT の採択基準は高齢者を対象とした急性期作業療法の臨床で使用するのに精度が高く，実用的な項目数のアウトカム指標を採択するために，中央値が 5.0 に達し，四分位範囲が 1.0 以下のものとした．また，アウトカム指標選択理由の分析には質的統合法を用いた．

結果

研究対象者は 8 名（すべて男性）で，急性期における経験年数は平均 6.5±2.1 年であった．NGT によるアウトカム指標の有用性の点数化では，全 77 項目のアウトカム指標リストから 30 項目のアウトカム指標が採択された．定量的なアウトカム指標からは握力や HDS-R, COPM など 7 項目が採択され，定性的なアウトカム指標からは生活行為に関わる質的な改善や主体性，自己効力感の改善など 23 項目が採択された．質的統合法によるアウトカム指標選択理由の分析の結果，作業療法士が高齢者を対象とした急性期作業療法のアウトカム

指標を選択する時のリーズニングでは，「急性期医療を提供する一員である作業療法士の役割」「生活行為の改善を中心に考える作業療法士の専門的な視点」「急性期病院の環境で対象者が高齢者であることへの配慮」から適切なアウトカム指標選択の判断をしていることやアウトカム指標選択の判断には「アウトカム指標として適切ではないという判断」と「アウトカム指標選択の判断に影響するセラピストの個人要因」の二つが影響していることがわかった．

考察

NGT の結果より，高齢者を対象とした急性期作業療法の効果を示すために有用と考えられるアウトカム指標は，定量的なアウトカム指標に比べて定性的なアウトカム指標が多く採択されており，急性期で対象者の変化を捉えるには定性的なアウトカム指標が適している可能性が示された．定性的なアウトカム指標であれば，対象者の発言や生活の中でみられる些細な変化を捉えることができるため，短期間であっても効果を示すことが可能であると考えられる．また，採択された定性的なアウトカム指標の中には，生活行為の改善や活動性の向上といった効果を示すもののほかに，意欲や主体性，自己効力感の改善といった生活行為の再開へつながる内面の変化を捉えているものもあった．質的統合法の結果では，アウトカム指標の選択理由に，「生活行為の改善を中心に考える作業療法士の専門的な視点」があり，作業療法士は生活行為に焦点を当てた支援の効果を示すことを重要としていると考えられた．以上より，高齢者を対象とした急性期作業療法では，生活行為やその質の改善と生活行為の再開につながる対象者の内面の変化を捉えることが可能なアウトカム指標が有用だと考える．

高齢者を対象とした急性期作業療法のアウトカム指標は，急性期や高齢者といった特性を踏まえた上で，対象者の生活行為に焦点を当てた支援の効果を示すことができるアウトカム指標が有用である可能性が示された．本研究の結果は高齢者を対象とした急性期作業療法の効果や急性期における作業療法の専門性を示すことへつながると考える．

注：1 ページあたり 1,000 字程度（英語の場合 300 ワード程度）で、本様式 1～2 ページ（A4 版）程度とする。